

10月5日の国内株式市場の下落について 不透明感は強いが下値の目途として意識されやすい水準が近づく

2021年10月5日

複数のリスク要因によりグローバルに軟調な動き

10月5日の国内株式市場は、TOPIX（東証株価指数）が前日比1.3%下落しました。4日は米国のS&P500指数が1.3%下落するなど、グローバルに軟調な推移となっていました。

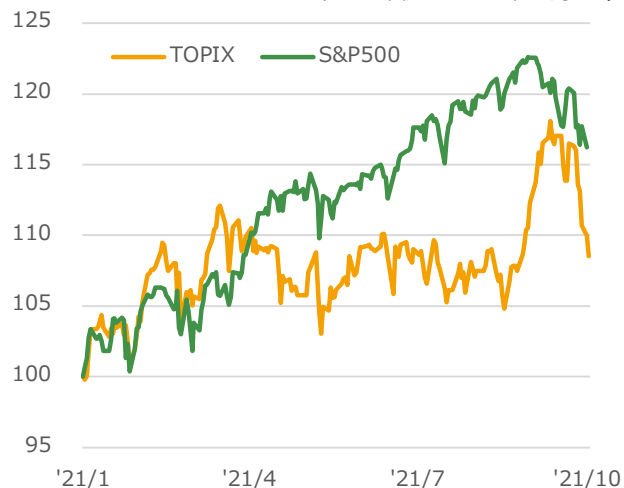
直近の株価下落は、①インフレや金利上昇懸念によりPER（株価収益率）などの株価指標が切り下がるリスクが意識されていること、②中国の不動産開発大手・恒大集団の資金繰り懸念が根強いこと、③部材不足や中国の電力不足問題により製造業を中心に業績への悪影響が懸念されていること、④米国の債務上限問題が継続していること、など複数のリスク要因が重なっていることが原因とみられます。

これら市場が懸念する要因が一気に解決することは難しいとみられるものの、例えば米国の債務上限問題はどこかの段階で民主党と共和党が合意に至ると考えられるなど、時間の経過とともに状況改善が期待出来るものもあると思われます。

TOPIXと各種移動平均の推移を見ると、すでに下値の目途として意識されやすい200日移動平均値に近づいています。新型コロナウイルスの経口治療薬の開発成功期待など株式市場がポジティブに評価する材料も存在しており、当面はリスク要因を注視しつつ、相場が落ち着きポジティブ材料が評価されるタイミングを待つ局面と思われます。

日米株価指数の推移

(起点=100) (2021年初～ 2021年10月5日)

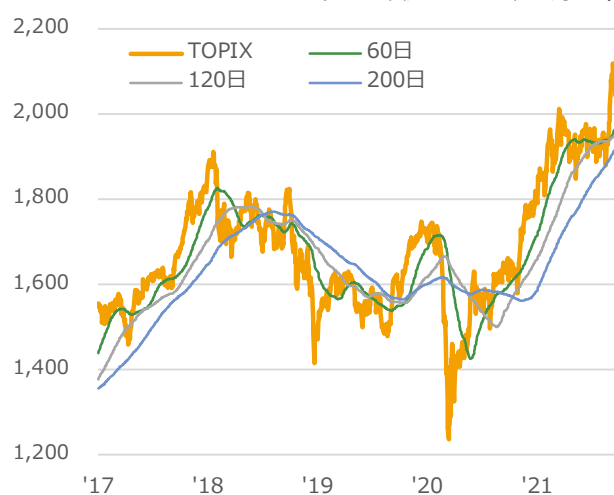


※S&P500の直近は2021年10月4日

(出所) ブルームバーグ

TOPIXと各種移動平均の推移

(2017年初～ 2021年10月5日)



(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。